

私は今回、コロラド姉妹派遣事業に参加させていただきました。

最初の顔合わせは、六月頃でした。そこでは五人の高校生が、顔合わせを行いました。私の高校からは、私ともう一人、女子高生が参加させていただくことは聞いていましたが、その学生との面識は、全くありませんでした。私は初対面の人との交流は得意だったこともあり、高校生から、進路に海外を視野に入れているという点で、その学生や、他校のそのような学生達に、緊張より、とても興味があったことを覚えています。

そして、実際に会って話をして感じたのは、とにかくポジティブな人が多い、ということでした。一番以外だったのが、私以外は皆、女子だったという点です。その点は、緊張もありましたが、何より自分の将来などの為、主体的にこういった活動に取り組めるところは本当に感心しました。期待半分と、不安半分で週2回ほど市役所でレッスンを行いましたが、国際交流員のゆみさんには、励まされてばかりでした。

そして、いよいよ出発の日となりました。私は海外に行ったことは無かっただけでなく、飛行機に乗ることも初めてだったので、慣れない機内で本当に不安でいっぱいだったことを覚えています。無事空の旅を終え、飛行機を降りると、カラッと乾燥した風が異国に来たことを改めて感じさせました。

初めてホストファミリーの方々と顔を合わせる時がやってきました。私は本当に不安だったのですが、ホストファミリーの人は、これ以上無いほど笑顔だったことを覚えています。その笑顔で、私がどれだけ安心したか、それだけでも感謝しきれません。その後「何が食べた？」と聞かれたので、緊張した私は何故か「スシ」と答えてしまったことを覚えています。現地の人には笑われました。

移動中に気づいたのですが、非常に自然が豊かだと思いました。まず、土地がとにかく広がったです。本当に広大な草原が広がっていました。そして、なにより私が驚いたことは、街に鹿や牛が闊歩していたところです。日本ではきっと、安全上、また特有の匂いなどを気にして、到底そのようなことは出来ないと思います。そういった点では、現地の方は自然と共存しているのだな、と思いました。

ホストファミリーとの生活は、とても暖かいものでした。特に、一緒に行った、小さなスポーツカーに乗ってレースをするサーキット場は、とても面白かったです。しかし、現地の方は16歳から免許が取れるので、不慣れな私は八人中五位が限界でした。

そして、私の中で一番印象的な思い出は、パイクスピークという山に登ったことです。その山の標高は、四千三百メートルほどあり、日本一の富士山を軽く超えてしまっていて、とても驚きました。また、岩もゴツゴツしたものが、あちらこちらに剥き出しになっていて日本の山とは、また違った感覚でした。

現地ではその後も色々となりましたが、何より私が痛感したことがひとつあります。それ

は、私自身の英語力の足りなさです。私たち日本人は、高校までに義務教育となる三年間の英語を修得します。しかし、それでは全く足りませんでした。基礎単語力、リスニング力、などと、自身の力不足に悩みました。特に、こんな風に答えたい、こんな風にコミュニケーションが取りたい、そう思ってもなかなか言葉が出てこない時のもどかしさは、今でも忘れられません。

来年の六月頃、今回のホストファミリー先のエイドリアンが私の家に滞在する予定なので、そこで挽回したいと思っています。単語帳や、リスニングなど、日常的なものから疎かにしないようにしたいです。

今回の派遣は、本当にたくさんの経験を積ませていただきました。現地特有の雰囲気や、優しさ、文化などなど日本と同じところもあれば違うところもありました。また、それぞれがとても興味深いものばかりでした。ぜひ機会があれば、また行きたいと思います。